

第6期東久留米市市民環境会議 第5回会議録

会 議 名	第6期東久留米市市民環境会議第5回会議
日 時	平成30年2月6日（火） 17時15分～19時30分
会 場	東久留米市役所 7階 704 会議室 B
出 席 者	出席委員数 7 名 欠席委員数 0 名
出席職員	環境政策課長 計画調整係長 緑と公園係長 計画調整係主事
内 容	I. 議 題 (1) 開会宣言と進行役の選任についての提案 (2) 進行役の選任 (3) 臨時会開催に至った経緯の説明（資料1） (4) 動議の説明（資料2） (5) 意見交換 (6) 今後の方向性について
配布資料	資料1. 市民環境会議の今後に関する第6期経緯Ⅱ 資料2. 市民環境会議 活動改革の取組み方向への疑問と見直し提案
議事内容	I. 議 題 (1) 開会宣言と進行役の選任についての提案 計画調整係長より開会宣言及び、今回は座長を中心に進めてきた内容に対する動議のため、座長以外での進行役を決めたいと提案があり、了承された。 (2) 進行役の選任 進行役は中立的な立場から進められる者が必要として、市役所から進行役を選任するものとし、緑と公園係長を進行役に選任した。 (3) 臨時会開催に至った経緯の説明（資料1） 緑と公園係長より資料1を使用し臨時会開催に至るまでの経緯を確認した。 (4) 動議の説明（資料2） 委員より資料2を用いて動議の説明があった。 ⇒進行役より確認の質問 会員減少の原因把握がWGⅤの個別活動としてあるが、それでは納得していないということなのか。全体で行っていききたいという動議書でよいか。 →資料2のとおりである。 (5) 意見交換 疑問事項1. について ⇒環境政策課としては環境基本計画にさかのぼり第5期の後半からあり方を検討してもらった。今期はもう少し進んだ形態にしたいので②である。 →①を検討しなければ②に行きつかない。組織論や他団体との協働の前に市民環境会議に魅力を感じていないから人が入らない。魅力を議論してからインタビューなど行うべき。 ⇒環境政策課から提案された連絡会は設置要綱や環境計画にあうところと、合わないところがあるから原点にかえて考えていこうとしている。

→途中で優先順位が変わったら検討方法も変えるべき。

⇒減少の解消としては、委員を継ぐ人間を各部会で育ててもらわないと難しいのではないかな。また全体で話し合うよりも各部会で意見交換をしてもらうのが良いのではないかな。また、一般市民へ環境活動の働きかけも同様に考える。

⇒一般市民の方は今と昔で生活リズムや定年退職の時期の変更もあるため、アンケートをとった時期もあったが、社会の流れが変化したという結果で終わってしまった。

→減ったのなら公募をかけて団体のみではなく、一般市民を1人でも興味を持っている人を増やすのが大事なのでは。全体会を行うにも、会員がしっかりいた方がよい。

⇒市民へのアピールは第5期に全体で行った。チラシでの募集や、ロゴを通して市民環境会議を知ってもらい、対外アピールを一生懸命行ったが、第6期の会員には結びつかなかった。アピール活動を倍にしても、委員会自体の活動に魅力がないのなら、PR人が活動しても無意味となる。

⇒市民環境会議に入ってみないかと声掛けは行っている。今自分たちが行うべきは行動することであって議論ではないと思う。周りは活動を見ていてくれる。しっかりしているところは入る。しかし、今入ってもらうよりも、会議体がしっかりして楽しいと思ってもらえるようにしてからがよい。

疑問事項2. について

⇒アンケートは大きく分けて2つ。調査は市民団体全体向けのアンケート、市民環境会議に参加していた過去の委員へのアンケート。

また、生きもの調査のための連絡会は調査に特化した形で行う。

⇒アンケートの内容を詰めるために1月24日に行う予定だったができなかった。

疑問事項3. について 保留

疑問事項4. について

⇒平成29年10月17日の第3回全体会にて「自然系（生きもの）に特化した連絡会的組織を考えていることから、市民環境会議の検討とは別でスタートさせて良いとする。」となっていたはず。

→連絡会について何も検討していないのになぜスタートさせてよいのか。

⇒生きもの調査の連絡会について検討を行うなら水とみどり部会で考える内容である。

→連絡会は以前にも行われており、消滅したと聞いている。なぜ無くなったのか検証を行わないと同じことを繰り返すのではないかな。

⇒以前結成した連絡会は川の草刈りに関する連絡会であり、環境団体ごとに考え方が違うためまとまらなかった。環境政策課案は以前の連絡会を考慮し、全体の合意を求めない形として提案をした。

疑問事項5. について

⇒平成29年10月17日の第3回全体会にて各部会にまかせる形で終結している。問題があれば変更してもらってよいと考える。

⇒環境学習部会ではサポーターの数は増えており、制度は生きている。

⇒水とみどり部会でも（くるっとウォーキングなどに選定委員に）必要に応じて入ってもらっている。

⇒サポーターには経験を積んでもらって委員になってもらいたいと考えがあったと思うが、各部会で育ててもらわないと無理ではないか。

→ステップアップの議論を全体でしていない。

⇒活動には興味があるが、会議には興味がない人も少なからずいる。

⇒各部会でまずは審議をして、全体でも基本の考え方を今後考えていく事にしたらどうか。

疑問事項6. について

⇒くらし部会の委員がいなのは、現状致し方ない。会議のあり方の検討をしている最中で公募をしても、またやめてしまう。よって、休会としている。

→委員の半減の状況に、活動の体制の検討をすべき

疑問事項7. について

⇒やらざるを得ないのではないか。対策を行う為にWGをしている。

→WG毎では重複している内容もあるため、優先順位をつけて会議を進めるべき。まずは会員減少の原因についてから話し合うべき。

⇒それは1つの意見であって、他にもそれぞれ意見があり、全体を取り入れた結果として今のWGの形にしている。

⇒グループ分けは行ったが手段は各グループに任せている。できる手段で行ってはどうか。

疑問事項8. について

⇒資料作りばかりで話が進めないということだが、全員こだわりがあつてご意見もあり、正論をいうだけでは進まない。本日の会議もPDCAの一環ともいえる。目指しているゴールは同じはず。

(6) 今後の方向性について

・WG ii 及び関係するアンケート関係は保留、くらし部会は休会、次回の全体会では現状のWG v より資料を出してもらい、会員減少の原因把握を全体で話し合うこととする。

・第5回会議の続きを次回の全体会議で行う。動議書の補足として進め方のフローを追加として提出をお願いした。

以 上

次回開催日 平成30年2月22日（木）午後4時から 502会議室